

心臓検査 CTで



安佐市民病院に昨年12月に導入された最新型のCT装置

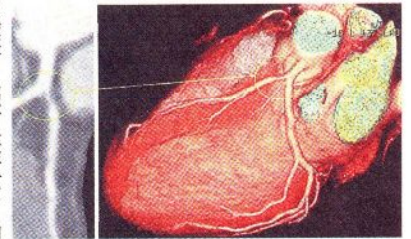
広島でも活用広がる

コンピューター断層撮影（CT）装置の機能が向上し、広島県内でも、心臓検査に活用されるケースが広がっている。これまでの動脈内に管（カテーテル）を入れる検査より体に負担が少なく、短時間で心臓の状態が把握できるメリットがある。
（平井敦子）

昨年12月に安佐市民病
院（広島市安佐北区）と具
共済病院（呉市）が導入し
たCT装置は、シーメン
ス社製の最新機種。わず
か0・28秒で、心臓全体
の画像が撮影できる。安
佐市民病院の場合、これ
までのCT装置では、撮影
時間は20秒。シャッタ
ースピードは、格段に
上がり、拍動する心臓を
体画像を構成。さまざま

機能アップ 短時間で解析

鮮明に映し出せるように
なった。同病院での購入
価格は約2億円だった。
体の回りにエックス線



広島大病院のCT装置で撮影した心臓の画像。冠動脈が狭くなっている部分が鮮明に映し出されている
（木原教授提供）

な角度から見たり、輪切
りしたりできる。心臓を
覆う冠動脈が狭くなつて
いるかどうかを確認で
き、心筋梗塞や狭心症の
診断につながる。

これは直径1.5mm前

後の細長いカテーテルを
手や足の動脈から入れて
心臓まで到達させ、冠動
脈の中に造影剤を入れて
エックス線撮影をする検
査が主流だった。半日か
ら1日の入院が必要で、
造影剤による副作用や血
管を傷つけるリスクもわ
ずかだがある。CT検査
は、そうしたリスクを負

わずに済む上、30分以内
に完了する。

安佐市民病院に新しい
装置の導入を要望してい
た「心臓病を克服する患
者の会WAP友の集い」
の西原大典代表（81）安
佐南区は「より安心し
て検査ができる」と喜ぶ。

広島大医学部の木原康
樹教授（循環器内科学）

によると、放射線検出器
が64列並び、心臓が鮮明
に撮影できる高性能のC
T装置は2005年から
国内で活用が始まった。

広島大病院（南区）は、
先駆的に同年からこのC
T装置を導入。循環器疾
患の診療に生かされてき
た。県内ではこのほか、
土谷総合病院（中区）、
JA広島総合病院（廿日
市市）などでも同様に心
臓のCT撮影ができる装
置がある。

木原教授は「カテーテ
ル検査では、血管の内側
の情報しか得られなかつ
たが、CTでは壁の状態
も見ることができて診断
に役立つ」と強調。「今
後は心筋梗塞や狭心症の
リスクの高い人のCT
を、発症の予防に活用で
きる可能性も秘めてい
る」と期待している。